

(仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

資料1

- 1. 目的**  
新たな子ども総合計画（H28年度～H32年度）の策定にあたり、急速な少子高齢化の進行、家庭及び地域を取り巻く環境の変化に対応した次世代育成支援対策を総合的かつ継続的に推進するために、市民ニーズを把握・分析し、新計画に反映させる。
- 2. 調査期間**  
平成27年7月21日（火）～平成27年8月20日（木）
- 3. 調査方法**  
調査対象に応じたアンケート調査票を送付し、同封した返信用封筒による郵送での回答（無記名）

**4. 調査票及び対象者数**

調査票の種類	対象者数	回答者数	回収率
① 就学前児童の保護者用	937	466	49.7%
② 小学校1～6年生の保護者用	1,063	424	39.9%
③ 小学校4～6年生用	613	244	39.8%
④ 中学校1～高校3年生用	1,387	407	29.3%
⑤ 地域・子ども関連団体用	786	351	44.7%
⑥ 認定こども園・幼稚園・保育所(園)・学校関係者用	219	125	57.1%
計	5,005	2,017	40.3%

**5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況**

(1) 認定子ども園・幼稚園・保育所等の満足度（調査票①問2）

【認定子ども園等の施設の満足度】

- 就学前児童のうち、「認定こども園」に通っていると回答した人は24.7%、「幼稚園」は10.3%（26.8%）、「保育所（園）」は43.6%（46.7%）などとなっている。
- 通っている施設を選んだ理由については、「自宅や実家が近い」73.0%（72.0%）、「兄弟姉妹が通っている（または通っていた）」36.1%（35.6%）、「職員の感じが良い」35.6%（35.3%）などとなっている。
- 通っている施設のサービスについて、満足している割合が高いのは、「食事」79.2%（69.1%）、「子どもの接し方・日常の遊び（保育内容）」78.1%（72.7%）、「保育参観や運動会などの行事」71.9%（67.9%）などとなっている。一方、不満の割合が高いのは、「子どもの様子の伝達」12.7%（11.7%）、「施設・環境（園舎・園庭・玩具など）」11.6%（10.9%）などとなっている。

【認定子ども園等の施設に通っていない理由】

- 就学前児童のうち、認定子ども園等の施設に「通っていない」と回答した人は20.4%（25.2%）となっている。
- 施設に通っていない理由としては、「子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で、その必要がない」41.1%（42.3%）、「子どもがまだ小さいため」28.4%（28.0%）などとなっている。

※（ ）内は平成22年度調査による実績。



「食事」「子どもの接し方・日常の遊びなどの保育内容」「保育参観や運動会などの行事」については概ね満足しているが、1割程度の人が「子どもの様子の伝達」などについて不満があると回答している。

<参考:施設ごとの満足度>

上段:満足、(下段):不満足

	認定こども園	幼稚園	保育所(園)	認可外	計
施設・環境(園舎・園庭・玩具など)	73.1% (7.0%)	70.8% (4.2%)	60.6% (15.2%)	50.0% (50.0%)	65.7% (11.6%)
職員の配置状況(人員体制)	79.1% (6.9%)	70.8% (14.6%)	64.1% (5.9%)	50.0% (0.0%)	69.5% (7.3%)
子どもの接し方・日常の遊び(保育内容)	83.5% (4.3%)	77.1% (8.3%)	75.8% (4.5%)	50.0% (0.0%)	78.1% (4.9%)
行事(保育参観や運動会など)	77.4% (8.7%)	75.1% (6.3%)	69.0% (6.9%)	25.0% (25.0%)	71.9% (7.6%)
食事	88.7% (0.9%)	58.4% (12.5%)	79.8% (3.5%)	25.0% (25.0%)	79.2% (4.0%)
病気やケガの対応	68.7% (7.0%)	72.9% (2.1%)	61.6% (7.9%)	25.0% (25.0%)	64.8% (7.1%)
子どもの様子の伝達	58.3% (13.9%)	66.7% (10.4%)	62.1% (11.9%)	50.0% (50.0%)	61.4% (12.7%)
悩みごとなどへの相談対応	52.1% (5.2%)	68.8% (2.1%)	52.7% (5.4%)	25.0% (25.0%)	54.4% (5.2%)
保護者の要望・意見への対応	53.1% (3.5%)	66.7% (2.1%)	51.7% (8.4%)	25.0% (50.0%)	53.8% (6.5%)
衛生対策	63.5% (3.5%)	72.9% (2.1%)	65.0% (3.9%)	75.0% (0.0%)	65.7% (3.5%)
安全対策	63.4% (3.5%)	75.1% (0.0%)	66.0% (3.9%)	75.0% (0.0%)	66.5% (3.3%)

(仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

(2) 放課後児童会等の満足度 (調査票②問2)

【放課後児童会等のサービスの満足度】

- ・小学校1～6年生の保護者のうち、「放課後児童会」を利用していると回答した人は13.2%、「児童館・児童室等」は10.4%、「放課後子ども教室」は6.1%、「放課後等デイサービス」は2.1%となっている。
- ・放課後児童会等のサービスで満足度が高いのは、「子どもの接し方・日常の遊び(指導内容)」57.0%(50.9%)、「施設・環境」54.1%(44.0%)、「職員の配置状況(人員体制)」53.4%(49.8%)、「病気やケガの時の対応」50.4%(47.1%)などとなっており、平成22年度に比べて満足している人の割合は増加している。

【利用しているサービスへの要望】

- ・利用しているサービスへの要望が多いのは、「利用時間を延長して欲しい」33.3%(23.2%)、「施設・設備を改善して欲しい」23.7%(14.7%)、「日曜日・祝日も開設して欲しい」22.2%(10.9%)などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績

<参考:サービスごとの要望>

	放課後児童会	放課後子ども教室	児童館・児童室等	放課後等デイサービス	計
利用時間を延長してほしい	37.5%	26.9%	31.8%	33.3%	33.3%
土曜日も開設してほしい	5.4%	34.6%	2.3%	11.1%	10.4%
日曜日・祝日も開設してほしい	21.4%	7.7%	25.0%	55.6%	22.2%
施設・設備を改善してほしい	21.4%	0.0%	38.6%	33.3%	23.7%
指導内容を工夫してほしい	8.9%	11.5%	9.1%	44.4%	11.9%
その他	19.6%	19.2%	6.8%	11.1%	14.8%

<参考:サービスごとの満足度>

上段:満足、(下段):不満足

	放課後児童会	放課後子ども教室	児童館・児童室等	放課後等デイサービス	計
施設・環境	44.6% (17.9%)	76.9% (0.0%)	59.1% (13.7%)	22.2% (33.3%)	54.1% (14.1%)
職員の配置状況 (人員体制)	53.6% (5.4%)	57.7% (7.6%)	56.9% (18.2%)	22.2% (22.2%)	53.4% (11.1%)
子どもの接し方・日常の 遊び(指導内容)	51.8% (3.6%)	69.3% (3.8%)	61.3% (9.1%)	33.3% (11.1%)	57.0% (5.9%)
病気やケガの時の対応	60.7% (5.4%)	38.5% (0.0%)	47.8% (4.5%)	33.3% (11.1%)	50.4% (4.5%)
子どもの様子の伝達	44.6% (12.5%)	53.8% (3.8%)	45.5% (13.6%)	44.4% (22.2%)	46.7% (11.9%)
保護者の要望・意見への 対応	46.5% (14.3%)	57.7% (0.0%)	43.2% (4.5%)	55.5% (0.0%)	48.1% (7.4%)
衛生対策	41.0% (9.0%)	50.0% (0.0%)	43.1% (11.4%)	11.1% (11.1%)	41.5% (8.1%)
安全対策	53.5% (7.2%)	46.2% (0.0%)	38.7% (13.7%)	11.1% (33.3%)	44.4% (9.6%)



放課後児童会等のサービスについて、平成22年度に比べて満足している人の割合は増加している。  
各サービスに関する要望としては、放課後児童会では「利用時間の延長」、放課後子ども教室では「土曜日の開設」、児童館・児童室では「施設・設備の改善」、放課後デイサービスでは「日曜日・祝日の開設」と回答した人が最も多くなっている。

## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (3) 子どもの学校生活のことについて気になること (調査票②問4)

##### 【子どもの学校生活について】

- 小学生の保護者が子どもの学校のことで気になることで割合が高いのは、「友達とのコミュニケーション」66.0% (65.4%)、「授業内容を理解しているかどうか」54.5% (52.8%)、「学校生活を楽しんでいるかどうか」51.7% (56.3%) などとなっている。
- その他、「いじめなどで困っていないかどうか」20.0% (14.6%)、「先生とのコミュニケーション」13.9% (8.7%) などとなっており、平成22年度に比べて増加している。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



子どもの学校生活で気になることとして、「友達とのコミュニケーション」、「授業内容を理解しているか」、「学校生活を楽しんでいるか」と回答した人の割合が多い。

また、平成22年度に比べて「いじめなどで困っていないか」、「先生とのコミュニケーション」が気になると答えた人の割合が増えている。

#### (4) 母子の健康について (調査票①問3)

##### 【健康診査(4か月児・1歳6ヶ月児・3歳児)について】

- 満足度が高いのは、「健康診査の内容」52.3% (49.4%)、「職員の対応」50.5% (42.6%)、「事前案内・会場づくり等の運営」46.8% (39.2%) などとなっており、平成22年度に比べて増加している。
- 不満度が高いのは、「病気や子育ての不安・悩みの相談機能」8.6% (7.4%)、「子育て支援の情報提供」8.6% (11.7%) などとなっている。

##### 【むし歯予防について】

- フッ素塗布によるむし歯予防については、「おおむね定期的に塗布している」35.8% (19.1%)、「塗布したことがある」26.8% (24.4%) を合わせた「塗布したことがある人」は62.6% (43.5%) となり、平成22年度に比べて増加している。
- 子どものむし歯については、「むし歯がない」75.8% (67.5%) となっており、平成22年度に比べて増加している。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



健康診査については、平成22年度に比べて「健康診査の内容」「職員の対応」「事前案内・会場づくり等の運営」など全般的に満足度が高くなっている。

また、平成22年度に比べて定期的にフッ素を塗布している児童が増加しており、それに伴ってむし歯のない児童が増加している。



## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (5) 子育てについて(調査票①問4、②問3)

##### 【子育てについて保護者が感じる事】

- ・就学前児童の保護者は、「楽しみや喜びを感じる」54.9% (58.4%)、「義務や責任を感じる」19.7% (18.4%)、「生きがいを感じる」10.7% (9.8%) などとなっている。
- ・小学校1～6年生の保護者は、「楽しみや喜びを感じる」40.6% (48.5%)、「義務や責任を感じる」30.0% (26.7%)、「生きがいを感じる」10.4% (10.1%) などとなっている。

##### 【子育てについて保護者が悩んでいる事】

- ・就学前児童の保護者は、「食事や栄養に関する事」44.6% (38.4%)、「子どもを叱りすぎているような気がする事」40.6% (38.4%)、「病気や発育、発達に関する事」39.7% (36.8%) などとなっている。
- ・小学生の保護者は、「子供の教育に関する事」39.2% (36.4%)、「子どもを叱りすぎているような気がする事」38.2% (41.4%)、「子どもとの時間を十分にとれない事」34.9% (37.2%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



就学前児童の保護者・小学生の保護者が子育てについて感じる事として、4～5割が「楽しみや喜びを感じる」、2～3割が「義務や責任を感じる」、1割が「生きがいを感じる」と回答している。  
また、子育てについて悩んでいる事として、就学前児童の保護者は「食事や栄養に関する事」、小学生の保護者は「子どもの教育に関する事」と回答した人が最も多く、次に就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに「子どもを叱りすぎているような気がする事」となっている。

#### (6) 地域での子育て環境について(調査票①問5、②問5)

##### 【家の近くの子どもの遊び場について感じている事】

- ・就学前児童の保護者は、「雨の日や雪の日に遊ぶ場所がない」61.4% (50.6%)、「遊具などの種類が充実していない」30.3% (30.3%)、「近くに遊び場がない」29.4% (30.5%) などとなっている。
- ・小学生の保護者は、「雨の日や雪の日に遊ぶ場所がない」62.5% (56.6%)、「近くに遊び場がない」29.5% (29.8%)、「遊具などの種類が充実していない」28.5% (31.4%) などとなっている。
- ・「雨の日や雪の日に遊べる場所がない」と回答した人の割合は、平成22年度に比べて増加している。

##### 【子育てをしていく上で地域に期待すること】

- ・就学前児童の保護者は、「休日・夜間・緊急時などの医療体制が整っている事」66.5% (67.9%)、「地域の防犯体制が整備されている事」63.3% (61.8%)、「子どもが安心して通学できる事」60.7% (52.5%) などとなっている。
- ・小学生の保護者は、「子どもが安心して通学できる事」69.8% (66.8%)、「地域の防犯体制が整備されている事」63.7% (53.8%)、「いたずらや危険なことをしていたら、注意や報告をしてくれる事」52.8% (55.1%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



雨の日や雪の日に遊べる場がないと考える保護者は、平成22年度に比べて増加している。  
また、地域社会に対して期待することとしては、緊急時等の医療体制の整備や防犯体制が整備されていることなど、子どもが安心して生活できるような環境づくりに関する回答が多くなっている。

(仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

(7) 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について(調査票①問6、②問6)

【ワークライフバランスについての希望と現実】

- 就学前児童の保護者は、希望では「『仕事』と『家庭生活』を優先」が34.1% (34.8%)、「『家庭生活』を優先」31.5% (26.3%)、「『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人生活』をともに優先」17.0% (18.6%) などとなっており、現実では「『家庭生活』を優先」34.1% (39.2%)、「『仕事』と『家庭生活』を優先」31.5% (29.4%)、「『仕事』を優先」24.0% (20.8%) などとなっている。
- 小学生の保護者は、希望では「『仕事』と『家庭生活』を優先」35.8% (29.3%)、「『家庭生活』を優先」24.5% (28.2%)、「『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人生活』をともに優先」18.4% (20.6%) などとなっており、現実では「『仕事』と『家庭生活』を優先」31.8% (33.4%)、「『仕事』を優先」27.6% (26.9%)、「『家庭生活』を優先」26.9% (23.3%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績

<参考:ワークライフバランスについての希望と現実>

		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「地域・個人生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先	無回答
就学前児童の保護者	希望	0.6%	31.5%	0.4%	<b>34.1%</b>	0.9%	11.4%	17.0%	4.1%
	現実	24.0%	<b>34.1%</b>	0.2%	31.5%	0.9%	3.4%	2.1%	3.6%
小学校1～6年生の保護者	希望	2.1%	24.5%	0.9%	<b>35.8%</b>	1.2%	12.5%	18.4%	4.5%
	現実	27.6%	26.9%	0.2%	<b>31.8%</b>	1.4%	4.0%	3.1%	5.0%



希望では「仕事を優先」と回答した人はほとんどいないが、現実では2割程度となっている。  
また、希望では「仕事、家庭生活、地域・家庭生活をともに優先する」と回答した人が2割ちかくなっているが、現実に行っていると回答した人はほとんどいない。

(8) 夜間や休日に子どもが急な病気になったときの対応について(調査票①問7、②問7)

【子どもが急病の時、最初にどのようにしているか】

- 就学前児童の保護者は、「様子を見て、次の日に開いている医療機関を受診する」54.9%、「インターネットなどで対応方法を調べる」34.5%、「すぐに救急医療施設を利用する」31.3%となっている。
- 小学生の保護者は、「様子を見て、次の日に開いている医療機関を受診する」63.4%、「すぐに救急医療施設を利用する」28.1%、「インターネットなどで対応方法を調べる」26.2%となっている。

【利用したことのある救急医療施設】

- 「すぐに救急医療施設を利用する」と回答した人が利用したことのある救急医療施設は、「初期救急医療施設」は就学前児童の保護者の72.6%、小学生の保護者の70.6%であり、「県病・市民病院」は就学前児童の保護者の60.3%、小学生の保護者の63.9%、「かかりつけ医」は就学前児童の保護者の9.6%、小学生の保護者の10.9%となっている。

【こども救急電話相談の認知度】

- すぐに救急医療を利用しない7割前後の人のうち、こども救急電話相談について、今後相談したいと考える人は就学前児童の保護者の86.9%、小学生の保護者の85.6%となっている。



およそ7割の人はすぐに救急医療施設を利用せず、様子を見て次の日に医療機関を受診するまたはインターネットなどで対応方法を調べるなどしている。

(仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

(9) 就学前の子どもが病気の際の対応について(調査票①問8)

【子どもが病気の際の対応】

- 子どもが病気の際の対応としては、「(就労している場合)仕事を休んで看護する」55.4%(46.1%)、「実家や親せき、友人に預ける」39.5%(34.9%)、「(就労していない場合)あなたが自宅で看護する」33.9%(46.4%)などとなっている。

【子どもが病気の際の対応について、強く思うこと】

- 子どもが病気の際に思うことは、「(就労している場合)有給休暇が取りやすい環境が整備されていること」44.2%(28.3%)、「通っている認定こども園、保育所(園)等に看護師が配置され、体調不良になった子どもへの対応が可能となること」39.1%(28.1%)などとなっている。

※( )内は平成22年度調査による実績

(10) 子どもの読書の関わり方について(調査票①問9、②問8、③問6、④問6)

【子どもが1か月に読んでいる本の冊数】

- 子どもが1ヶ月に読んでいる本の冊数について、就学前児童の保護者は「1~2冊」と回答した人が最も多く29.6%、小学生の保護者も「1~2冊」と回答した人が最も多く40.1%となっている。
- 小学校4~6年生本人は「11冊以上」と回答した人が最も多く34.0%、中学校1~高校3年生は「1~2冊」と回答した人が最も多く34.9%となっている。

【保護者が1ヶ月に読んでいる本の冊数】

- 就学前児童の保護者は「0冊」と回答した人が最も多く42.3%、小学生の保護者は「1~2冊」と回答した人が最も多く42.0%となっている。
- 家族が1ヶ月に読んでいる本の冊数について、小学校4~6年生は「1~2冊」と回答した人が最も多く37.3%、中学校1~高校3年生も「1~2冊」と回答した人が最も多く34.7%となっている。

<参考:親が読む本の冊数と子どもが読む本の冊数の関係(就学前児童の保護者)>

区分	0冊	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~8冊	9~10冊	11冊以上	無回答
0冊(親)	13.2%	36.5%	12.7%	14.7%	2.0%	10.7%	8.6%	1.5%
1~2冊(親)	0.6%	34.0%	20.1%	19.5%	0.6%	13.8%	11.3%	0.0%
3~4冊(親)	3.1%	15.6%	43.8%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
5~6冊(親)	0.0%	11.1%	18.5%	40.7%	0.0%	14.8%	14.8%	0.0%
7~8冊(親)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
9~10冊(親)	0.0%	0.0%	11.8%	11.8%	0.0%	58.8%	17.6%	0.0%
11冊以上(親)	0.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%	20.0%	70.0%	0.0%
無回答(親)	0.0%	25.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	58.3%



就学前の子どもが病気の際には、「仕事を休んで看護する」と回答した人が最も多くなっており、また、子どもが病気の際に強く思うこととして、「有給休暇を取りやすい環境が整備されていること」や「子どもが通っている施設で対応してくれること」などの回答が多くなっている。



子どもが1ヶ月に読む本の冊数については、小学校4~6年生は11冊以上と回答した人が最も多く、それ以外は1~2冊と回答した人が最も多い。  
また、保護者がたくさん本を読む家庭では、子どももたくさん本を読む傾向がある。



## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (11) 子どもの権利条例等の認知度 (調査票①問10、②問9、③問7、④問7)

##### 【子どもの権利条例の認知度】

- ・就学前児童の保護者では、「名称も内容も多少知っている」9.2%と、「名称も内容もよく知っている」1.7%を合わせた、知っている人の割合は10.9%となっており、小学生の保護者では、「名称も内容も多少知っているが18.9%と、「名称も内容もよく知っている」4.5%を合わせた、知っている人の割合は23.4%となっている。
- ・小学校4～6年生では、「名前も内容も多少知っている」8.2%と、「名前も内容もよく知っている」2.5%を合わせた、知っている人の割合は10.7%となっており、中学校1～高校3年生では、「名称も内容も多少知っている」8.4%と、「名称も内容もよく知っている」2.9%を合わせた、知っている人の割合は11.3%となっている。

##### 【子どもの権利相談センターの認知度】

- ・就学前児童の保護者では、「名称も内容も多少知っている」13.5%と、「名称も内容もよく知っている」2.6%を合わせた、知っている人の割合は16.1%となっており、小学生の保護者では、「名称も内容も多少知っている」24.8%と、「名称も内容もよく知っている」5.2%を合わせた、知っている人の割合は30.0%となっている。
- ・小学校4～6年生では、「名前も内容も多少知っている」16.0%と、「名前も内容もよく知っている」10.7%を合わせた、知っている人の割合は26.7%となっており、中学校1～高校3年生では、「名称も内容も多少知っている」19.4%と、「名称も内容もよく知っている」11.1%を合わせた、知っている人の割合は30.5%となっている。



「青森市子どもの権利条例」について「知っている」と回答した人は、小学生の保護者は2割を超えているが、就学前の保護者・小・中・高校生は1割程度となっている。  
「青森市子どもの権利相談センター」について「知っている」と回答した人は、「子どもの権利条例」よりは高くなっているが、就学前児童の保護者は1～2割、小学生の保護者・小・中・高校生は3割程度となっている。

#### (12) 行政サービスに期待すること (調査票①問11、②問10)

##### 【子育て支援に関する要望】

##### ①就学前児童の保護者

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 経済的支援 (保育料等軽減、各手当支給など)                         | 42件 (9.0%) |
| 2. 子どもの遊び場について (公園・屋内施設の整備など)                     | 36件 (7.7%) |
| 3. 子育て支援情報の充実 (情報提供、イベント開催、相談機能など)                | 28件 (6.0%) |
| 4. 子どもを預けやすい環境の充実 (病児対応除く) (休日保育・保育時間の拡大、放課後対策など) | 27件 (5.8%) |
| 5. 子育てしながら働き続けるための支援について (有給休暇・育児休暇を取得しやすい環境など)   | 17件 (3.6%) |
| 6. 病児対応施策等の充実                                     | 13件 (2.8%) |
| 7. 医療費について (現物給付、所得制限撤廃、対象児童拡)                    | 12件 (2.6%) |
| 8. 母子保健関連支援                                       | 5件 (1.1%)  |
| 9. 教育視点での子育て支援 (教育費の無料化、多種教室等)                    | 4件 (0.9%)  |
| 10. 予防接種について (無料化、助成制度、集団接種など)                    | 3件 (0.6%)  |
| 11. 子どもの安全対策 (防犯、道路など)                            | 2件 (0.4%)  |
| 12. 市政に対する苦情                                      | 7件 (1.5%)  |
| 13. その他   | 36件 (7.7%) |

##### ②小学校1～6年生の保護者

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 子どもの遊び場について (公園・屋内施設の整備など)                   | 30件 (7.1%) |
| 2. 教育視点での子育て支援 (教育費の無料化、少人数学級、教師資質、親教育など)       | 28件 (6.6%) |
| 3. 子どもを預けやすい環境の充実 (病児対応除く) (放課後児童対策など)          | 26件 (6.1%) |
| 4. 経済的支援 (保育料軽減、各手当支給など)                        | 19件 (4.5%) |
| 5. 医療費について (現物給付、所得制限撤廃、対象児童拡大など)               | 15件 (3.5%) |
| 6. 子育て支援・教育関連情報の充実 (情報提供、イベント開催、相談機能など)         | 14件 (3.3%) |
| 7. 子育てしながら働き続けるための支援について (有給休暇・育児休暇を取得しやすい環境など) | 11件 (2.6%) |
| 8. 病児対応施策等の充実                                   | 5件 (1.2%)  |
| 9. 子どもの安全対策 (防犯、道路など)                           | 3件 (0.7%)  |
| 10. 予防接種について (無料化、助成制度、集団接種など)                  | 1件 (0.2%)  |
| 11. 市政に対する苦情                                    | 14件 (3.3%) |
| 12. その他   | 18件 (4.2%) |

## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (13) 家族とのことについて(調査票③問2、④問2)

##### 【家族との会話について】

- ・小学校4～6年生では、「たくさんする(2時間以上)」60.7%(44.5%)と「あるていどする(1時間くらい)」30.3(38.1%)を合わせた「1時間以上会話する人」の割合は91.0%(82.6%)となり、平成22年度に比べて増加している。
- ・中学校1～高校3年生では、「たくさんする(2時間以上)」41.5%(28.9%)と「あるていどする(1時間くらい)」43.5%(40.8%)を合わせた「1時間以上会話する人」の割合は85.0%(69.7%)となり、平成22年度に比べて増加している。

##### 【家族との会話が楽しいか】

- ・小学校4～6年生では、「いつも楽しい」75.4%(62.8%)と「たまに楽しいときがある」21.7%(33.7%)を合わせた「楽しいと感じている人」の割合は97.1%(96.5%)となり、平成22年度に比べて増加している。
- ・中学校1～高校3年生では、「いつも楽しい」55.3%(39.6%)と「たまに楽しいときがある」38.6%(48.8%)を合わせた「楽しいと感じている人」の割合は93.9%(88.4%)となり、平成22年度に比べて増加している。

##### 【家族でよく話をする人は誰か】

- ・小学校4～6年生では「母親」58.6%(66.3%)、「兄弟姉妹」19.3%(19.4%)などとなり、中学校1～高校3年生でも「母親」66.1%(54.6%)、「兄弟姉妹」14.7%(25.7%)などとなっている。

##### 【家族と夕食をたべるか】

- ・小学校4～6年生では、「いつもいっしょに食べる」75.8%(68.6%)と「だいたいいっしょに食べる」19.7%(25.7%)を合わせた「いっしょに食べる人」の割合は95.5%(94.3%)となり、平成22年度と比べて増加している。
- ・中学校1～高校3年生では、「いつもいっしょに食べる」55.3%(45.9%)と「だいたいいっしょに食べる」34.2%(31.9%)を合わせた「いっしょに食べる人」の割合は89.5%(77.8%)となり、平成22年度に比べて増加している。



※ ( ) 内は平成22年度調査による実績

1日に1時間以上家族と会話すると回答した人が8割以上であり、また9割以上の方が家族との会話を楽しいと回答しており、平成22年度に比べて増加している。  
家で最もよく会話する人については、5～6割の人が「母親」と回答しており、また、夕食については9割程度の方が家族といっしょに食べると回答している。

※ 平成27年度調査と平成22年度調査は調査対象が異なる。

調査対象 平成27年度: ③小学校4～6年生 ④中学校1～高校3年生  
平成22年度: ③小学校5～6年生 ④中学校1～3年生

#### <参考:年齢別家族との会話の状況>

区分	たくさんする	あるていどする	あまりしない	ほとんどしない	無回答
小学校4年生	60.5%	28.9%	9.2%	0.0%	1.3%
小学校5年生	61.5%	32.1%	5.1%	1.3%	0.0%
小学校6年生	60.0%	30.0%	6.7%	3.3%	0.0%
中学校1年生	46.4%	42.0%	8.7%	1.4%	1.4%
中学校2年生	45.7%	39.5%	11.1%	3.7%	0.0%
中学校3年生	43.0%	36.7%	17.7%	2.5%	0.0%
高校1年生	36.1%	45.9%	14.8%	3.3%	0.0%
高校2年生	32.1%	50.9%	11.3%	3.8%	1.9%
高校3年生	41.3%	50.8%	6.3%	1.6%	0.0%

#### <参考:年齢別主に会話する家族>

区分	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	いない	その他	無回答
小学校4年生	3.9%	57.9%	23.7%	5.3%	0.0%	3.9%	5.3%
小学校5年生	9.0%	60.3%	17.9%	9.0%	0.0%	2.6%	1.3%
小学校6年生	7.8%	57.8%	16.7%	5.6%	0.0%	2.2%	10.0%
中学校1年生	7.2%	73.9%	14.5%	1.4%	0.0%	0.0%	2.9%
中学校2年生	6.2%	69.1%	14.8%	1.2%	1.2%	0.0%	7.4%
中学校3年生	13.9%	55.7%	17.7%	2.5%	1.3%	3.8%	5.1%
高校1年生	4.9%	67.2%	11.5%	4.9%	1.6%	1.6%	8.2%
高校2年生	5.7%	64.2%	17.0%	3.8%	1.9%	3.8%	3.8%
高校3年生	7.9%	68.3%	11.1%	3.2%	0.0%	6.3%	3.2%

#### <参考:年齢別家族との食事の状況>

区分	いつもいっしょに食べる	だいたいいっしょに食べる	あまりいっしょに食べない	いっしょに食べない	無回答
小学校4年生	72.4%	22.4%	5.3%	0.0%	0.0%
小学校5年生	78.2%	17.9%	1.3%	2.6%	0.0%
小学校6年生	76.7%	18.9%	3.3%	0.0%	1.1%
中学校1年生	62.3%	27.5%	10.1%	0.0%	0.0%
中学校2年生	55.6%	34.6%	9.9%	0.0%	0.0%
中学校3年生	55.7%	39.2%	3.8%	1.3%	0.0%
高校1年生	65.6%	23.0%	9.8%	0.0%	1.6%
高校2年生	49.1%	34.0%	17.0%	0.0%	0.0%
高校3年生	41.3%	46.0%	11.1%	1.6%	0.0%



(仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

(14) なやみごとなどについて(調査票③問3、④問3)

【悩みがあるかどうか】

- ・小学校4～6年生では、「特に悩みはない」52.5% (44.8%)、「勉強や成績のこと」25.8% (28.6%)、「友達・先ばいのこと」16.0% (20.3%) などとなっており、中学校1～高校3年生では、「勉強や成績のこと」51.4% (54.9%)、「将来のこと」39.8% (31.0%)、「特に悩みはない」28.0% (26.9%) などとなっている。

【悩みを相談できる人】

- ・小学校4～6年生では、「親」79.1% (75.6%)、「友達・先ばい」42.6% (50.5%)、「学校の先生」28.7% (24.1%) などとなっている一方、「特にいない」が7.8% (11.1%) となっている。
- ・中学校1～高校3年生では、「友達・先ばい」65.4% (59.0%)、「親」65.1% (44.9%)、「兄弟姉妹」21.9% (21.5%) などとなっている一方、「特にいない」が10.6% (20.8%) となっている。

【将来やってみみたいことや夢があるか】

- ・小学校4～6年生は、「ある」が72.5% (82.9%)、「今は思いつかない」が27.0% (16.8%) となっている。
- ・中学校1～高校3年生は、「ある」が65.6% (71.8%)、「今は思いつかない」が34.2% (27.5%) となっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



小学生のおよそ半数が「特になやみはない」と回答している一方、中学生・高校生のおよそ7割が何か悩みを持っている。  
悩みの相談相手としては、小学生では「親」、中学生・高校生では「友達・先ばい」と回答した人が最も多くなっている。  
また、将来の夢については、6～7割の人が「ある」と回答している。

(15) 学校のことについて(調査票③問4、④問4)

【学校で楽しいことは何か】

- ・小学校4～6年生は「友達と遊ぶこと」85.7% (87.6%)、「運動会や学習発表会などの学校行事」54.9% (61.0%)、「部活動」41.0% (40.6%)、「授業」38.1% (35.9%)、「先生との会話」22.5% (24.8%) などとなっている。
- ・中学校1～高校3年生は「友達と遊ぶこと」75.9% (80.3%)、「運動会や文化祭などの学校行事」58.5% (55.1%)、「部活動」49.4% (50.2%)、「授業」26.5% (17.4%)、「先生との会話」17.9% (14.4%) などとなっている。

【学校でいやなことはあるか】

- ・小学校4～6年生は、「特にない」66.8% (61.3%)、「友達との関係」15.2% (17.1%)、「授業」13.9% (17.1%) などとなっている。
- ・中学校1～高校3年生は、「特にない」56.0% (50.7%)、「授業」25.8% (37.0%)、「先生との関係」12.0% (7.9%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績

<参考:授業が楽しいと感じる児童・生徒 経年比較>

区分	H27	H22	H27-H22
小学校4年生	38.2%	—	—
小学校5年生	39.7%	35.8%	3.9
小学校6年生	36.7%	36.0%	0.7
中学校1年生	37.7%	30.3%	7.4
中学校2年生	27.2%	10.8%	16.4
中学校3年生	25.3%	14.2%	11.1
高校1年生	18.0%	—	—
高校2年生	24.5%	—	—
高校3年生	25.4%	—	—

※平成22年度調査における対象が小学校5年生～中学校3年生であったため、小学校4年生及び高校生については実績なし。



学校で楽しいこととして、7～8割の人が「友達と遊ぶこと」、5～6割の人が「学校行事」を挙げている。  
授業が楽しいと回答した人は、小学生、中学生はともに平成22年度に比べて増加しているが、特に中学生が増えている。

## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (16) 地域のことについて(調査票③問5、④問5)

##### 【学区の中で遊べる場所はあるか】

- 小学校4～6年生は、「公園」83.6% (81.6%)、「友達の家」77.0% (83.5%)、「家や学校近くの道路や原っぱ」41.0% (47.0%) などとなっている。
- 中学校1～高校3年生は、「公園」55.5% (63.2%)、「友達の家」53.3% (73.1%)、「市民センター」21.6% (26.9%)、「家や学校近くの公園や原っぱ」21.4% (29.4%) などとなっている。

##### 【地域活動で何かしていることはあるか】

- 小学校4～6年生は、「地域の人にあいさつをする」60.2% (58.1%)、「子ども会の活動」18.0% (20.0%)、「清そう活動」16.8% (16.8%) などとなっている。
- 中学校1～高校3年生は、「地域の人にあいさつをする」49.6% (49.3%)、「清そう活動」22.1% (20.6%)、「その他(特にない、ねぶた祭りなど)」11.1% (1.6%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



子どもたちが学区の中で遊べる場所について、「公園」「友達の家」と回答した人が多くなっている。  
また、地域活動について、「地域の人にあいさつする」と回答した人が最も多くなっている。

#### (17) 日ごろ暮らして気になること(調査票③問8、④問8)

##### 【日ごろのくらしで気になることについて】

- 小学校4～6年生は、「冬のくらしのこと(除雪、遊び場など)」16.0% (17.8%)、「環境のこと(エコ、ごみの問題など)」13.1% (19.0%)、「青森市のまちづくりのこと(公園、道路、信号など)」11.9% (11.7%)、「観光のこと(新幹線、ねぶた、温泉など)」11.5% (14.9%) などとなっている。
- 中学校1～高校3年生は、「冬のくらしのこと(除雪、遊び場など)」16.0% (15.7%)、「観光のこと(新幹線、ねぶた、温泉など)」11.8% (11.3%)、「青森市のまちづくりのこと(公園、道路、信号など)」10.6% (10.9%)、「食のこと(食育、地産地消、栄養など)」10.1% (4.9%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



子どもたちが日ごろのくらしで気になることについて、小学校4～6年生は「冬のくらしのこと」「環境のこと」「青森市のまちづくりのこと」などの回答が多くなっており、中学校1～高校3年生は「冬のくらしのこと」「観光のこと」「青森市のまちづくりのこと」などの回答が多くなっている。

## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (18) 家族・学校・地域に対して、思うこと(調査票③問9、④問9)

##### 【学校・家庭・地域に対する要望】

##### ①小学校4～6年生

1. 学校について(授業、先生、校則など)	45件(18.4%)
2. 公園・遊び場について	39件(16.0%)
3. ゴミ・環境について	16件(6.6%)
4. いじめ・暴力・友人関係について	13件(5.3%)
5. 学校について(学校施設など)	12件(4.9%)
6. まちづくりについて	10件(4.1%)
7. 交通安全・防犯について	7件(2.9%)
8. 地域について	5件(2.0%)
9. 家族について	4件(1.6%)
10. 学校について(給食)	4件(1.6%)
11. 今のままでよい	3件(1.2%)
12. その他	18件(7.4%)

##### ②中学校1～高校3年生

1. まちづくりについて	28件(6.9%)
2. ゴミ・環境について	26件(6.4%)
3. 学校について(授業、先生、校則など)	20件(4.9%)
4. 学校について(学校施設など)	20件(4.9%)
5. 公園・遊び場について	18件(4.4%)
6. いじめ・暴力・人間関係について	14件(3.4%)
7. 地域について	10件(2.5%)
8. 家族について	5件(1.2%)
9. 交通安全・防犯について	2件(0.5%)
10. 今のままでよい	3件(0.7%)
11. その他	67件(16.5%)

#### (19) 地域・子ども関連団体(調査票⑤)

##### 【所属団体の活動を効果的に進めるために必要なものは何か】

- ・「マンパワー」43.9%(41.3%)、「資金」28.6%(39.3%)、「情報」19.6%(27.9%)、「活動場所」16.9%(25.9%)などとなっている。

##### 【子ども自身、家庭、地域社会に求めたいこと】

- ・子ども自身に対しては、「心の育ち(子どもらしさ、思いやり、やさしさなど)」17.5%(28.8%)、「生きる力(夢、意欲、信頼など)」9.5%(27.1%)、「行事・事業への参加(地域活動含む)」9.5%(7.7%)などとなっている。
- ・家庭に対しては、「親の子育て意識・姿勢」32.0%(52.4%)、「町内・地域への関心」20.4%(19.9%)、「子どものしつけ」10.8%(39.6%)などとなっている。
- ・地域社会に対しては、「地域パトロール・見守り・声かけ」31.2%(16.8%)、「町会・家庭との協力体制・理解」21.7%(32.2%)、「学校・放課後児童会、保育所などとの協力・理解」8.2%(26.5%)などとなっている。

※( )内は平成22年度調査による実績



地域・子ども関連団体の活動を効果的に進めるために必要なものとして、「マンパワー」「資金」「情報」などが上げられている。



## (仮称) 青森市子ども総合計画策定にかかるアンケート調査結果の概要

### 5. アンケート結果から見える子ども、保護者などの主な状況

#### (20) 認定子ども園・幼稚園・保育所(園)・学校等関係者(調査票⑥)

##### 【所属団体の活動を効果的に進めるために必要なものは何か】

- ・「マンパワー」56.9% (36.8%)、「資金」45.4% (36.8%)、「情報」30.8% (35.2%)、「活動場所」20.8% (17.6%) などとなっている。

##### 【子ども自身、家庭、地域社会に求めたいこと】

- ・子ども自身に対しては、「社会性・道徳性を身につける(礼儀、言葉遣い、物事の善悪、ルールなど)」21.5% (24.0%)、「心の育ち(子どもらしさ、思いやり、やさしさなど)」14.6% (47.2%)、「生きる力(夢、意欲、信頼など)」13.8% (44.0%) などとなっている。
- ・家庭に対しては、「親の子育て意識・姿勢」22.3% (48.8%)、「子どものしつけ」16.9% (22.4%)、「家庭でのコミュニケーション」15.4% (28.0%) などとなっている。
- ・地域社会に対しては、「子育て応援体制づくり(子どもの社会性・道徳性の育成助言など)」27.7% (10.4%)、「保育所・幼稚園・小中学校との連携(学校教示・人材活用など)」12.3% (30.4%) などとなっている。

※ ( ) 内は平成22年度調査による実績



認定子ども園等の団体の活動を効果的に進めるために必要なものとして、「マンパワー」「資金」「情報」などが上げられている。

#### (21) 障がい児支援団体(ヒアリング調査)

##### 【支援活動の中で感じていること】

- ・家族等の支援者が高齢化し、支援活動を行う人材が不足してきている。
- ・どのような支援があるのか、どこに相談すればいいのかといった情報が不足している。
- ・医療と福祉、教育など関係機関の連携による支援が不足している。



障がい児支援団体から、  
・家族等の支援者が高齢化し、支援活動を行う人材が不足してきている。  
・どのような支援があるのか、どこに相談すればいいのかといった情報が不足している。  
・医療と福祉、教育など関係機関の連携による支援が不足している。  
との意見があった。